

市当局、通園バス制度統一などで アンケート調査実施へ…一般質問で言明

私は15日、市議になってから10回目の一
般質問に立ちました。今回は生の言葉で議論を
する議会への改革をめざし、原稿もメモもまっ
たく持たないで登壇、市道の維持管理、保育園
通園バス制度の統一、文化財保護と活用、介
護・福祉労働者の労働条件改善などをテーマに
質問しました。以下はその大要です。全部を見
たい人は上越市議会のホームページの「過去の
中継」でござんただけです。

市道の安全確保策の充実、重ねて強調

【橋爪法一】市道長池北線国府3丁目地内で発
生した側溝転落事故は市の道路行政を揺さぶる
事故だった。市長は、重要な事件との認識を
持っているか。

【木浦市長】同じ認識だ。

【橋爪法一】事件後、現場を見てきたか。

【木浦市長】見ていない。しかし、写真や地図
などで判断して重要だと思ひ、手を打った。



【橋爪法一】ご覧になった方がいい。ごく普通
の市道での事故だ。誰もが安心と思っている
ところで発生した、ここが重要だ。今年度から、
13区全域で市道管理の民間委託が始まった
が、いまのやり方でいいかどうかチェックする
必要がある。率直に言って十分とは言えない。
月1回の「日常巡回」ではダメだ。1週間以内
に見直してほしい。

【木浦市長】残念ながら、そういう状況がある
ことは私も承知している。1週間でできるかど
うかわからないが、しっかりと検討させたい。

通園バス制度の統一案がいいかどうか 保護者の意思を確認すべきだ

【橋爪法一】来年4月からの通園バス制度の統
一に向けて説明会が行われた。私も6会場で参
加した。市長は「説明会で概ね理解をいただい
た」と言うが、何を根拠にそう言われるのか。

【市村市民生活部長】統一案は合併協議を基に
作成している。多くの皆さんはその
ことを前提にして、バスの運行
形態はどうするかとか、バス停が
どうのこうのと踏み込んだ議論を
されておったと理解している。

【橋爪法一】果たしてそれでいい
のか。私はアンケートをとって
しつかり確認すべきだと思う。中
郷区での（保育園保護者に対す
る）説明では、利用するかどう
かを中心にしたアンケートを作成
して、制度案についても聞くこと

すると言われたそうだが、付けたしではダメ
だ。統一案がいいか、わるいか、わからない
か、ズバツときくように変えてほしい。

【木浦市長】検討させていただく。
管理者からのSOS受けとめ、指定文
化財の保護政策充実を

【橋爪法一】このたびの13区の文化財の指定
で市の指定文化財は310になった。県内一の
宝の数だが、今後、どう活用していくか。

【小林毅夫教育長】県内最多となったが、これ
は当市が古くから越後国（えちごこく）の政
治・経済・文化の中心都市として繁栄してきた
ことを如実に示すものだ。市としては、こうし
た文化財に触れ合う機会を創出するとともに、
説明看板の整備や解説書・ガイドマップ等の作
成を段階的に進めることにより、（裏面へ）

専門家と一緒に最終処分場候補地を視察

日本共産党議員団は
16日、地元の地質な
どの専門家とともにゴミの最終処分場候補地
である宮野尾へ行ってきました。谷間の現地
まで踏み込んだ調査は初めてでした。



約1時間半歩いて到着。海拔125メー
トルほどの現地はヨシが生い茂っていました。地質図、地形図
を広げて説明を聞きましたが、現地は地すべり地帯でした。
私は、数が少なく、保護対象とすべき昆虫や植物と出会わ
ないかと見てきました。6月議会では、地元専門家から調査し
てもらったことを検討するとの答弁がされています。

五月になったばかりの日、夜9時半頃でした。私の携帯電話が鳴りました。入院したばかりの妻の父親が重体に陥ったという知らせです。じつはその前日、私は義父の家を訪れていました。コタツで一緒に昼寝をした際、呼吸が荒く、しょっちゅう咳き込んでいたので、いままでとは違うなどは感じていたのですが、まさかこんなにも早く緊急事態がやってくるとは思いませんでした。

直ちに家に戻り、妻を乗せて柏崎市内の病院へと向かいました。ナースセンターのすぐそばの個室に義父は入っていました。医療機器に囲まれ、呼吸の音だけがハッキリと聞こえる病室。付き添ってくれていた義兄によると、持病の間質性肺炎だけでなく、心不全を起こしている可能性もあり、重篤状態だといっています。義父は自己呼吸ができなくて、人口呼吸器というのでしょうか、機械の力を借りて呼吸していました。

間質性肺炎は加齢とともに肺の機能が落ちていきます。義父がこの病気だとわかったばかりのころは、健康な人と同じが違うのかと思うくらいでしたが、そのうち、ちよつと力仕事をしただけでも咳き込むようになりました。最近では体の移動もままならず、台所、トイレ、寝室を歩き来するのがやっとならぬと義母から聞いていました。でも、病院に向かった義父はその日の新聞、いつも持ち歩いている自分のカバンを持参したそうですから、たいしたことなく家に戻れると思っていたにちがいないと妻のキョウダイは三人です。入院したその日から、キョウダイやそれぞれの連れ合

い、それに近くの親戚の人が義父に付き添いました。患者が無意識の内に点滴などの器具をはずさないか、機械が表示している数値が異常にならないかなどを見えています。医者からは、ここ一週間が山です、連休明けに人工呼吸器をはずした時、果たして自己呼吸できるか、できなければ付けたままの状態が続く、そう言われました。

連休明け。妻から「自己呼吸できたよ」と聞いた時はうれしかったですね。何かしゃべろうとしている気配もあったともいいます。それから酸素マスクになり、数日後には、おかげも食べられるようになっていきました。何回目か忘れましたが、見舞いに行った時、ベッドの上に新聞が置いてあるのを見て、ホッとしました。私はこれで退院できることを確信しました。

一カ月後、義父は退院しました。入院が一時間遅かったら死んでいたといえますから、本当に運が良かったと思います。退院して数日後、私は、自宅療養中の義父を訪ねました。ベットがある部屋に入ると、義父はさつと手を出し、握手を求めてきました。「ありがとう、世話になったな」。私は何回か見舞いに行っただけだったので、妻が三日に一回くらいの割合で付き添いをしたことへのお礼の言葉なのでしょう。手に力が入っていました。「とんでもない。おとうさんの看病をさせてもらったおかげで女房もだいぶ良くなってきました」とこたえました。

この日、義父母や妻などと一緒に、見舞いとしてもらったというスイカをご馳走になつてきました。まだ六月ですから、早すぎてうまくないだろうと思つたら、意外にもとても甘く、美味しいスイカでした。一切れ食べたところで、義母が言いました。初ものを食べた時には西の方を向いてアツハツハと笑うもんだと。どうやら、柏崎地方の言い伝えらしい。スイカであろうがマクワであろうが、初ものを食べた時に西の方を向いてアツハツハと笑うと長生きするのだそうです。アツハツハといった調子まではないきませんでした。みんなで笑いました。これで義父も元気になるでしょう。

（一般質問続き）市民の皆さんから郷土の歴史・文化への理解を深めていただき、地域への愛着心や誇りを持っていたいだきたいと思つている。

また、これらの文化財は、単に上越市の財産としてのみならず、尾神岳報尽碑のように観光資源となりうるものもある。所有者や管理者の方々の意向を伺いながら、広く情報発信するとともに、市の関係部局と連携しながら観光客の誘客に向けた仕掛けづくりなどに努めてまいりたい。（左の写真は雲門寺の上杉景虎書状）

【橋爪法一】指定された文化財を管理している人や団体の中には、これから管理していくのは、いまのまま

ではダメだ、何とかしてほしいとOSを発信しているところがある。いくつあるか。

【笹井教育部長】手元に数字はないが、いろいろな形で相談を受けている。補助金とか委託料とか、できるかぎり相談に応じて対応させていただいている。

【橋爪法一】このままじゃ、町内会で10年先、管理できないというところもある。文化財保護条例7条での対応だけでいいかどうかも含めて検討していただきたい。

【小林毅夫教育長】近い将来管理が困難になるケースは確認している。それらの窮状を支援することは今後の重要課題だ。他市の事例と見比べながら検討していきたい。

市内の介護・福祉職場の労働実態調べ、労働条件改善図れ

【橋爪法一】市内の民間福祉施設等の労働実態については、低賃金、人手不足、過密労働などと聞くが、把握しているか。

【木浦市長】平成18年度の県調査によると、1ヶ月の賃金は22万2千円、勤務日数は21日、実働時間は163時間となっている。一概に過密労働とは言えないのではないか。全業種の平均と比較すると賃金については約3万円低い。しかし、国に対して特別な財政支援を求める状況にはないと思つている。

【橋爪法一】実態は国に対して支援を求めないでいい状況ではない。現場を見てほしい。

